

7月10日(土), 7月19日(月)

7月10日・19日に幼児教育専攻自然教育コースの講義に東大谷高校の生徒さんをお招きしました。

10日は2回生の「基礎ゼミⅡ」という授業のなかで例年行っている活動です。地域で水生生物保護活動しておられる専門家から「川遊びのリスクマネジメント」について講義を受けた後、大学近隣の一級河川である石川へ移動し、魚とりなど川で遊ぶ楽しさやライフジャケットの装着など具体的な安全管理を体験しました。実際に川に入ること、水の温度や川の流れを肌で感じる体験をし、自然の中でどこに注意をしたら楽しく安全に活動できるのか、考えてもらうきっかけづくりをしました。



19日は大谷さやま子ども園の5歳児クラスの子も達の「園外保育」に参加しました。既に2回生の頃に川遊びについて学んだ経験のある4回生が保育実践演習Bという授業の一環として園外保育のボランティアとして参加しました。2回生で学んだことを、実際の園外保育で保育者という立場で経験しました。自分が楽しむだけでなく、子ども達の安全管理をしながらの活動です。

子どもはどうしてあげたら動きやすいのか、どうなると危険なのかを考えます。初めは緊張気味だったお姉さん先生、お兄さん先生も「先生～」と子どもに声をかけられて顔がほころび、そして子ども達を守ろうとしっかりとした表情に変わってきました。

こども園の先生方、石川河川公園の管理者の方々、そして大学生と高校生に見守られながら、子ども達は安心して夏の川遊びを満喫できたようです。

「子どもたちに川遊びを思いっきり楽しんでほしい。」その思いから始まった保育体験活動です。「また遊ぼうね。」と子ども達。皆の笑顔がいっぱいの高大連携の保育体験でした。

